

## 第1回「持続可能な高岡市民病院のあり方検討会議」議事要旨

日時 令和6年12月25日(水) 午後3時～

会場 高岡市民病院 講義室

### 質疑・意見交換の要旨

(○…委員からの発言 □…事務局からの説明等)

#### 【議事1・議事2】病院の概況等 関連

- 診療科別の患者数の推移において、内科の数値が大きく減っているのは何故か。
- 医師の入れ替わりなどが影響している。
  
- 主な医療機器の状況で、令和6年度の医療機器購入がなかったのは財政的な理由か。
- 資料に示した機器は大型の案件。それ以外にも計画的に購入・更新を行っている機器がある。その他に施設改築などもあった。
  
- 公共性の高いサービスを提供している市民病院は高岡医療圏においても重要である。常に黒字を出し続ける必要はないが、赤字が続く状態も厳しいだろう。  
収益が減ってるのに経費が上がっているのは、人件費などの固定費が大半を占めているという構造によるものと考えられる。この会議の場でなくても良いが、3年、5年、10年先に収支がどうなっていくのかという見通しを立てながら将来の検討を進めていくべき。
  
- 病院の中期経営計画の中では、改善策についてどのように説明されているのか。
- 入院患者、外来患者を増やしていくことに視点を向けて計画しているところ。改善策としてアイセンターの設置や地域包括ケア病棟の設置などを打ち出している。
  
- アイセンターは(従来の)眼科とどう違うのか。
- 診療自体が大きく変わるわけではないが、医師を4人に増員し、受入れ体制を強化したところ。
- アイセンターの反響は。
- 患者数は増えてきている。
  
- 資料の「紹介・逆紹介」の項の紹介率の説明にある、初診患者の定義とは。
- 本院では、初めて受診した患者と前回受診日から1年以上経過した患者を初診患者として紹介率等を算定している。
  
- 子どものアレルギー問題が注視されている。開業医においても専門科を設けているところもある。そうした視点を広げて、距離感が遠くならない病院、地域に近い病院を目指してほしい。

- 行きやすい病院というのも大切である。駐車場は問題なく車が止められるのか。いつも一杯になっている気がするが。
- 台数としては約 400 台分の収容数がある。駐車場の数の問題があることは認識している。
  
- 病院食は美味しいのか。評判は。
- 病院職員も検食する機会がある。個人的には美味しいと感じている。
  
- 支出をおさえる視点はあるのか。
- 現在、節減策等を検討中である。
  
- 地域別の診療者数はどうなっているのか。かつては氷見から高岡の病院へ通ってくるという話も聞いていた。
- 高岡医療圏の患者が富山医療圏に通ったり、砺波医療圏から通ってきていたりという流れは存在している。コロナ禍を経て流れが変化していることも考えられる。
- 状況改善のためには、駐車場や待ち時間の問題なども含め、厚生連等の他の病院との差別化が重要になってくる。
  
- 済生会高岡病院はリウマチや整形外科などに特化したイメージがあり、その分野の症状であれば紹介する。厚生連は内科を細分化している。高岡市民病院は外来が細分化されておらず、病院の特色、強みの打ち出しが弱いのではないか。
- 院内で協議し、検討していきたい。

### 【議事 3】 検討の視点・進め方 関連

- 市民アンケートなどにより、市民や関係事業者等の意見を聞くことも考えてはどうか。
- なるべく幅広く意見を反映できるよう、手法、タイミングなども含めて検討していきたい。
  
- 本日の説明で挙げられた課題は、中小企業の課題と似たものがあると感じた。例えば DX の推進や外国人労働者の活用による働き手側の改革などによっても、改善の可能性があるように感じた。ハードルは高いと思うが、何か一つでも取り組めることができると良い。高岡市民病院の強みを活かした経営、収支バランスの改善を考えてもらいたい。